



深田久弥

山の文化館だより

令和元年
秋号

深田久弥 山の文化館
〒922-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL (076) 721-3311
FAX (076) 721-1181

ふるさとの自然ふれあいコンクール 入賞作品決まる

今年で十四回目となるコンクールが行われ、市内小中学生の多くの作品が寄せられた。感性あふれる多くの作品が集まり、九月十三日に審査が行われた。審査員は画家の長谷川清、写真協会の宮下一夫両氏にお願いした。厳正な審査の結果、加賀市長賞、加賀市教育委員会賞、深田久弥山の文化館賞各一点と佳作、入選各十点がえられ、深田久弥山の文化館で展示された。



加賀市長賞 菅本 煌己さん(錦城東小2年)



加賀市教育委員会賞
下出 優那さん(作見小3年)



深田久弥山の文化館賞
吉本 悠人さん(山中小5年)



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と
その7

守門山五万分の一地形図

名の栃堀、二分、五味沢である。そして、栃堀から道院ヒユッテ、長峰、保久礼、大岳、守門山のルートに薄らと線が引かれている。

この地図に対応する文章はないかと探すと、『わが愛する山々』の中の「守門山」があった。これは、昭和三十五年三月上旬の山行の様子を書いたものである。守門山と浅草岳を目指したが、天候に恵まれず守門山の大岳(前守門)だけの登頂に終わっている。

久弥の地図には、白石川(現在の破間川)と、現在の守門川(当時は川名の表記が無い)に入る谷筋の名前が克明に記入されている。これらの谷名は、現在の地図には、ほとんどすべてが表記されている。

深田久弥山の文学全集第三巻の「守門山」の解題には、地図の話が書かれており、そこには大正五年版が取り上げられている。久弥が「守門山」の文中に書いているように、八十里越えには木ノ根茶屋と言う峠の茶屋の記載もある。解題の中で編集者は「筆者は本篇執筆の際大正五年版「守門山」も参照していたと思われる。」と述べているが、この地図がまさにそれである。

深田久弥とうた

久弥は著書の中に、その山に関する「うた」をよく紹介しています。それは万葉集であったり短歌、長歌、俳句、漢詩、詩などとても幅広い分野から紹介されています。

百名山の中では「伊吹山」に藤村、「石鎚山」には熊谷直好の『海原に立つ白雲と見えつるは伊予の高嶺の雲にぞありける』が、「安達太良山」には高村光太郎の智恵子抄の一節、また「北岳」には平家物語から『北にとおざかりて、雪白き山あり・・・惜しからぬ命なれども今日までに つれなき甲斐の白峰をみつ』など枚挙にいとまがないほどです。

記憶の中にあつた「うた」を想いつつ山頂に立ち、「うた」に寄り添い四方の山々を眺めていたのではないのでしょうか。

久弥の文学におけるロマンと博学には感心させられるばかりです。

ほかにも「岩木山」に太宰 治、「岩手山」

に石川啄木、「月山」に芭蕉等々その著作に多くの作品が載せられています。

以前の読書会で取り上げられた「日野山と木ノ芽峠」の中にも多くの万葉集の歌が挙げられています。志げ子夫人の希望で訪ねた味真野の相聞歌の美しさに惹かれて、読書会のメンバーも味真野を訪れ、日野山を眺めながらロマンを味わいました。

君が行く 道の長手を繰畳ね

焼きほろぼさむ 天の火もがも

吾妹子に 恋ふるに吾は たまきはる

短き命も 押しけくもなし

このような古の人の熱き思いを胸に、令和の今、万葉に心を傾けるのもいいかと思えます。私はその山の頂きに立った時、久弥がこの山ではこんな風に書いていたと、思いを馳せるだけで心豊かになり、深い満足感、幸せ感を得ることができます。

Y・K

この一冊

この夏、『稲坂謙三遺文集 白山の麓で』と題する書物が自費出版されました。編集者は謙三さんの孫の山崎 亮さん、発行者は息子の稲坂 暢さんです。過去に発表された文章を編集したもので、深田久弥との登山について語っている稲坂謙三の間書きや、深田久弥が稲坂謙三について書いた文章などが収録されています。久弥の最初の登山の師であり、戦後共に、はつしほ俳句会や、錦城山岳会を立ち上げた、終生の親友であった謙三との関係を窺い知ることが出来ます。



残雪期白山山系初縦走の時の稲坂謙三と佐伯平蔵たち（稲坂 徹氏提供）

間こう会予定

月に一度、山に関わるお話を聞いています。ぜひご参加下さい。（聴講無料）

午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房

■十月二十日（日）

演題…みんなの白山～白山のあれこれ
講師…宮下由美子氏

■十一月十七日（日）

演題…黒部は生きている
講師…佐々木 泉氏

■十二月十五日（日）

演題…フナオ山観察舎で見られる動物たち
講師…白山自然保護センター 北市 仁氏

読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。（参加無料）

十月十八日（金）「安達太良山」

十一月十五日（金）「月山」

十一月十七日（金）「北岳」

●場所Ⅱ深田久弥山の文化館

●時間Ⅱ午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

秋の訪れの遅い今年は各地で災害が多く起き、自然の怖さを感じないではいられません。

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・一年で最も過ごしやすい季節になりますがお体に気を付けてお過ごしください。館のシンボルの銀杏も実がなり、まもなく黄色の絨毯が庭一面に広がります。是非今年も足を運んでください。 N・Y

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>